

# 会 議 録

## 1. 会議名

第7回仙北地域協議会

## 2. 議題（公開・非公開の別）

議 事 （1）地域枠予算執行方針について（公開）

その他 （1）自動体外式除細動器の設置について

## 3. 開催日時

平成19年3月23日（金） 午前10時より

## 4. 開催場所

大仙市仙北総合支所第1会議室

## 5. 傍聴人の数

0人

## 6. 出席したものの氏名

委員：池田武、熊谷政子、進藤豊和、千葉嗣助、池田佐喜男、黒澤三郎、佐藤昇、  
小林千歳、佐藤力哉、竹村正資、進藤勇吉、大澤隆夫、茂木保治、  
原松男、佐々木忠雄

（委員15名出席、欠席3名）

仙北総合支所：栗林市長、小松総合政策課長、総合政策課・藤川主幹、同加藤主任  
根本支所長、高橋地域振興課長、熊谷地域政策考査員、藤原市民課長、佐  
藤建設課長、鈴木農林振興課長、仙北分室・竹内副主幹、健康増進センタ  
ー仙北分室・塩谷主幹、市民課・竹村参事、地域振興課・田口副主幹、同  
池田主事

## 7. 発言内容

地域振興課長

【開会】

第7回仙北地域協議会の開会を宣言

本日は大変お忙しいところご出席いただき有難うございます。本日の地域協議会は委員の2分の1以上が出席しておりますので、大仙市地域自治区の設置等に関する条例第9条第3項の規定により本協議会は成立いたしますことをご報告申し上げます。  
それでは早速会を進めたいと思います。

会 長

【会長あいさつ】

みなさん、こんにちは。お忙しいなかお集まりいただきまして大変有難うございます。年度末を迎え、卒業式も終え、これから入学や就職等で新たな人生を迎えるお子さまやお孫さまがいらっしゃるメンバーや職員の方も多いいと思います。先日、こども地域協議会の会計監査で大河先生やあるいは町の職員と話をしましたが、最近の卒業式では「仰げば尊し」を歌わなくなったといわれておりました。確かに自分の子どもの時も歌わなかったかなあといま思いましたが、「仰げば尊し」は先生に感謝を申し上げる歌で、普段は先生にあまり感謝して授業を受けたことはないですが、年一回は、あるいは6年に一回は感謝する日だと改めて思いまして、仰げば尊しがつくずくい歌だなと思ったところです。最近の教育でいろんな事件がありますが、生きていることへの感謝、親への感謝、先生への感謝、仕事があることへの感謝など様々なことに対する感謝をしなければいけないだろうし、そのような教育も必要じゃないかと「仰げば尊し」から思ったところです。わたしも常々生きていくことへの感謝と仕事があることへの感謝を胸にして毎朝神棚に手を合わせていますが、感謝して生きていきたいと思っております。

さて、本日は第7回の地域協議会です。前回行った平成19年度の地域枠予算の概要方針を前回決定されましたが、今回は市長に対して事業を紹介する日です。市長には是非平成19年度の地域枠予算を認めていただくようお願いいたします。私の挨拶といたします。

地域振興課長

続きまして、市長がごあいさつ申し上げます。

市長

おはようございます。

地域協議会の皆様にはたいへんお忙しい中、地域協議会に出席いただきましてありがとうございます。

地方分権のキーワード、いわゆる「住民との協働」というものがなければ地方分権がうまくいかないというのは全国共通であろうと思います。そういう意味で地域協議会の皆様の役割は、これからますます重要になってくるものと思いますので、よろしく願い申し上げます。

また、合併2年ということで地域協議会あるいは地域枠予算を18年度から用意いたしましたけれども、なかなかこのへんのところも理

解度が進まなかった時期があつたと思います。地域枠予算を含めて1年間いろいろ事業を審議していただいたおかげで、これから紹介されます19年度の様々な地域枠予算もほぼ私の満足するようなものが出ていているように思います。これも委員の皆様と総合支所の職員が一体となって、この地域の課題を考えた一つの成果ではないかと思ひまして感謝しております。

今年度は、このとおり暖冬で、この前少し冬の戻りがありましたけれども非常に楽な冬を過ごさせていただいております。昨年度が凄い雪でしたので、除雪体制に万全を期してスタートしたのですが、除雪の出動回数も極めて少なかったわけです。ただ、一定の機械と労働力を業者の皆様をお願いしていますので、基本的な部分についてはお支払いするというのを12月に決めてご連絡しております。そういう形をきっちりしておかないと忙しい時だけお願いするという事になってしまうので、その対応についても早めに出動回数に応じて、大体このぐらいは維持管理の問題もありますので、お支払いしますということをお早めに申し上げながら、拘束される皆さんも大変な仕事でありますので、昨年度のように忙しいのも大変ですが、雪がないということでも待機するのも大変なことのようでもあります。そういう意味でも、がんばっていただいている皆さんとの信頼関係を生むためにもそういうことを早めに連絡しているところであります。

昨年度の大雪で大変だったものですから大仙市社会福祉協議会の皆さんをお願いして、ボランティア組織をおもてに出して「大仙雪まる隊」を多くの皆様に呼びかけていただいて1000人近い登録がありました。このとおりでしたので出動回数がゼロということですが、しかし仕組みを作ったことですので、こんな冬というのは滅多にないと思いますので、来年度に備えてボランティア組織が活動する機会は必ずあることですので、仕組みを大事にしていきたいと思っております。

また、全市で始めました高齢者世帯除排雪サービス事業についても一定の料金をいただいておりますけれども、この件についても出動回数が非常に少なかったもので、それは前納をさせていただいております。8000円から12,000円くらいでしょうか、協力いただける業者をお願いして、これにつきましても前納させていただいておりますので、早めに出動回数に応じて精算をさせていただくこととし、関係する皆様に通知を差し上げております。

本市も合併して3年目を迎え、地方自治体の自己決定・自己責任の強化が図られる中、いかに住民の声を反映させるのかが重要な課題となっております。また、財政の状況につきましても国の全体の税収が非常に増えて、国全体では景気はよくなってきていますけれども、それは大都市圏であって地方はその恩恵にほとんどあずかってないということです。東京とか名古屋はどんどん税収が伸びて、雇用もどんど

ん拡大しております。しかし、我々秋田県のようなところ、特に大仙市のように稲作のところは税収が伸びない状況であります。

そういう状況を受けながら我々は、なんとか工夫してこの自治体をもっていかなければならないため、様々な工夫をこらしていかなければなりません。それには何としても住民の皆さんの英知を結集して住民の皆さんと一っしょに仕事をしていくという考え方を強めていかなければ、行政で様々なことを従来のように「やってください」というようなことは、なかなか出来なくなってきました。そういう意味で地域協議会の皆さんの役割、様々な地域の課題を的確に捉えて自ら動いていただけたところは動いていただき、そして、市と協働でやることはやる。そういう考え方をこれからも地域の中で強化していただきたいと思います。

合併時から大仙市では地域自治区を設定し地域協議会を各地区に設けております。さらに、これに加えまして地域協議会を中心にして地域枠予算というものを組みましたし、あるいは自治会支援や自治組織としての町内会に対しての助成も行ってきております。そういうことをやりながら地域の力、自治の力を高めていかなければならないのではないかなということで、皆さんと一っしょに我々職員の側もがんばりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

19年度の予算は、この前議会が終わりまして正式に表に出せるようになりました。こういう財政状況を受けまして、一般会計予算では総額が428億程度です。前年度に比較しますと当初予算で3.6%ほど削減しております。一般会計、特別会計、企業会計を合わせますと772億円程度で、この全体予算も4.2%ほど削減した予算になります。削減するものは削減しながら、やるものはやるという考え方でおりますので、ある意味で市民の皆さんから効率が悪い、あるいは無駄な面があるのではないかとということをできるだけ指摘していただきながら、効率の良い仕事をしていくんだという考え方で組ませていただいております。医療・福祉面等、あるいは生活に密着した様々な関係については、出来るだけ予算を配布してまいります。

19年度は総合計画の2年目に当たりますので今非常に大事な時期だと思ひます。限られた財源を最大限活かした仕事をしていきたいと思ひます。

また、地域協議会の皆さんを対象にしまして、昨年同様全体の研修会の予算を組んでおります。それぞれの地域協議会の皆さんが活動する先進地視察の予算を用意しております。全体の研修会では様々なことがありますけれども、お隣の太田地区出身でK2に登頂した小松由佳さんに市民栄誉賞を差し上げることに決定しておりますけれども、この方からの講演会を中心にして全体研修会を準備しております。

今年度から着手しました仙北南地区の簡易水道統合事業を継続事業

として完遂したいと思っています。新規としまして戸地谷地区の水道事業を着手しまして22年度に完成したいと思っています。真木ダムの代替案計画を県と一緒に作りまして作るようになっておりますが、大仙市全体の上水道の基本計画を作成中で、もう1年くらいで完成の予定です。実施計画にはそろそろ19年度あたりから入っていく考えです。

この大きな計画では、真木ダムに水源を求めようとしておりましたけれども真木ダム案を断念しました。代替案の中では、玉川と檜内川との合流点付近の伏流水に水源を求めるものと、太田地区にボーリングして地下水を使うということを確認しております。それから大曲の上水道でまだ余裕がありますので、この余裕水を加えた3つの系統の水を使っていわゆる東部地区の仙北、太田、中仙地区の大きい簡易水道計画を具体化させるということで、これから実施の段階に入っております。これは真木ダムの代替案でありますので、代替案全体の洪水調整の関係、斉内川の改修についても大体10年ということで県が事業化するというのでありますので、こちらの水道事業についても基本計画ができれば、すぐ実施の計画に移りながらなるべく着手を早くして短い期間で、この水道問題を解決していかねばなりません。

それから継続しております「ふれあい公園事業」につきましては、第2第3第4駐車場の整備を行っており国体の野球会場になっておりますので、それには充分対応できるスペースを確保できると思っております。工事の関係では体育館の実設計ができましたので20年度の当初から建設にかかるという順序で進めております。完成は21年度ということになっております。このことについてはスポーツ関係の皆さんと充分協議をしながら仙北地区を含め大曲あるいは近隣の皆さんも利用できる体育館にしたいと考えております。

仙北地域は国道のバイパスの関係で大分市街化されてきておりますので、道路の状態につきましても支所の方からも再三もう少し手を入れて欲しいと指摘されております。19年度に国体で使用する自転車ロードについては5月・6月で完成させたいと思っております。

また、懸案事項となっておりますのが仙北地区の生活道路として緊急自動車や除雪車又は入浴サービス車などが通ることができるようにしてほしいということですが、これは道路維持の特別枠として計画的に対処していきたいと思っています。

地域枠予算については、小さいものはできるだけ支所長の判断で出来るよう少しずつ強化してまいりますので、地域協議会の皆さんを中心にして地域からも元気な声を出していただきながら大仙市の3年目をスタートさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

地域振興課長

これからの会の進行を会長をお願いします。

会 長

それでは会議録署名員の指名を行います。会議録署名員は佐々木忠雄委員、茂木保治委員をお願いします。

合併後、地域協議会も2年目を終えようとしています。これまで各委員が戸惑いながらも職員と一緒に進めてきた協議会でありました。

そのような中で平成18年度より地域枠予算が新たに設けられ暗中模索の中で予算を執行してきましたが、改めて仙北地域の抱える課題や地域づくりの難しさを実感した1年でした。言葉では理解できるのですが、いざ地域住民に対して地域づくりについて理解していただき住民からのやる気をどのようにして引き出していくかなど、短期間では出来るものではないと痛感したところです。

一方、地域では、いま核家族化に伴うアパートの新築や新たな団地の形成が一層進み、人と人とのつながりが薄くなってきているのが現状です。そのため様々な問題を一人で抱え込み深刻化しているのが見受けられます。このような地域の住環境整備や環境美化、防犯や防災など地域のかかえる問題や課題を皆で考え共有し、力を合わせて対応していくための地域づくりを模索しているのが現状です。平成18年度では地域づくり講座や地域と行政が協働で行う事業として板見内地区の堰の改修や集落会館駐車場の舗装整備、ボランティア団体への補助、環境美化事業などを行ってまいりました。

18年度事業を行った上での地域の課題として自治会のリーダーの高齢化に伴う若い後継者の育成や組織作り、自治会の活性化に向けた取り組み、住民の意識改革などが必要であると感じております。

また、課題の現状として自治会の代表が当番制になっているところが多く計画的な方向性をつかめないままに次年度の代表に引き継ぐという自治会が多いことや、まだまだ協働のまちづくりが住民に浸透しておらず従来の行政主導での事業のあり方を踏襲していると考えている住民もいることから、リーダーの育成と住民の意識改革に努めていきたいと考えております。

そこで19年度のテーマは資料にございますとおり「地域と行政が協働で築く仙北地域の特色を活かした活力ある地域づくり」とし、地域協議会で地域枠予算を決定させていただきました。

それでは平成19年度地域枠予算の執行方針を説明いたします。

まずはじめに、市が中心となって実施する事業です。史跡の里の秋祭り。これは平成18年度も行った事業であり、生涯学習で学んだ成果を発表する場として、また住民と一体となった地域密着型のイベントを実行していく事業です。経費は30万円を予定しております。

続いて、仙北歌の共演事業です。当地域には史跡の里づくり委員会

という組織があります。夏祭りの「彩夏せんぼく」には小学生とPTAまた高齢者のスキークラブである白銀の会や蝦夷ほたるを飛ばす会などが主な事業主体となって払田柵周囲3.5kmに旗を立てるよみがえる平安の柵と払田柵の冬まつりを企画運営している団体です。本事業は、彩夏せんぼくの夏祭りの中で実施するゲストを招いての歌謡ショーと大仙市内全域からの歌自慢を招いての歌の共演事業です。開催場所は、池田氏庭園と共に仙北地域のシンボルである国指定払田柵南門前であり、地域の活性化と払田柵跡の観光PRを図りたいという事業であります。45万円を予定しております。

続いて、地域づくり講座実施事業です。当地域の課題について先ほど申し述べました地域づくりの知識を習得して、地域のリーダーを育成する意味で重要な事業であると位置づけ、実践的講座の開催を企画していく方向で事業を行いたいと考えております。いずれにしろ地域住民の意識改革や地域づくりの住民のあり方については、1・2年で育つものではございませんので長期にわたって継続する事業と考えております。これには53万円計上しております。

続いて、地域緊急対応措置事業についてです。この事業は、仙北地域における住民個人や団体等の要望にこたわらず、緊急に対応しなければならないような課題が発生した場合に支所長の判断により速やかに事業をするための予算で70万円を予定しております。

さきほど市長が総合支所長の判断で執行できる予算を来年度設けているということでしたが、たぶんその事業内容とは違ったものとなりますが、これはあくまでも地域協議会の中の予算ということで考えていきたいと思っております。

続いて、会館駐車場等の整備です。これにつきましては、地域の活動拠点である会館の駐車場整備を行うことで、地域活動の強化と地域の連携を深めていくことになる事業と考えています。平成18年度は4件の事業を行っており、地域住民が主体となって行っている事業です。これについては、90万円を予定しておりますが、地域の申し出により予算の変動が考えられる事業です。

次に、ボランティア団体等活動団体への補助事業として交通安全推進活動事業補助金です。これは横堀・高梨地区の2つの交通安全会への補助金ですが、平成19年度も引き続き行うこととしました。平成20年度以降は、安全会の予算内容等を検討して廃止の方向で考えておりますが、今回のみ実施する事業です。一応、横堀・高梨地区に各1万円を計上しまして2万円の予定をしております。

続いて、地域づくり事業活動団体補助金です。これについては、平成18年度は読み聞かせボランティアそよかぜと食のボランティアなど2団体の補助がございました。来年度についても自主的で主体性のある団体で仙北地域の活性化を図る事業を実施している団体に対して

補助金の交付を行うこととし3団体に60万円を予定しております。

次に、地域の協働まちづくり事業です。これについては、平成18年度で行った板見内地区の前堰改修等がこの事業に該当した事業でした。地域内の課題に対して行政が支援を行って住民が迅速に対応するための事業です。平成19年度については3件の要望があり150万円を予定しておりますが、地域の要望により対応していく予算と考えておりますので、結果として予算の変動が考えられる事業です。

最後になりなりますが、地域づくりの根幹として人づくりが一番重要でと考えております。人づくりにはある程度長い期間が必要と思っておりますが、そのための下地づくりが緊急の課題と考えております。

仙北地域としましては、これまで申し上げた事業を行って地域と行政が協働で築く特色のある地域づくり進めながら、人づくりもしていきたいと考えております。以上で平成19年度予算案地域枠予算の執行方針の説明を終わります。

市長から何かありましたら、お願いします。

市 長

特別ございません。

会 長

市長からは特にないとのことですので、このまま事業に乗せていただけるものと了解させていただきます。

次に、6番のその他の項目です。

その他では前回第6回地域協議会で自動体外式除細動器の設置について進藤委員の方から提起してもらいました。現在、地域予算の要望の中で高梨、横堀両小学校及び仙北中学校や体育館への自動体外除細動器(AED)設置の要望がございました。これについては、近年心臓疾患による突然死が取りざたされる中で大衆が集まる施設では2004年より一般市民も使えるようになったAED設置に関心が高まっております。特に、小中高生には心臓震盪でスポーツ中に突然死する事例が多く報告されており心臓震盪や心臓停止の症状が出た場合、蘇生まで1分経過する毎に蘇生率が10%下がるためにスポーツ指導者への機器の操作講習を行い即応事態に対応できるように設置をお願いする趣旨のものでございました。当地域協議会としても協議を行ったわけですが、早急に行わなければならないとすれば地域枠で対応してもいいのではという意見もございました。しかし、非常に重要な問題であることは委員全員が理解しましたが、結果として金額的に高価であることや児童生徒の人命にかかわる問題であるため支所単独の問題ではなく大仙市全体の中で検討して行くべき問題でないかという結論に達しました。本日市長が出席くださるということで地域協議会として市長に強く要望すると前回の会議で話し合われておりますので、

是非、市には考慮願いたいと思います。なお、この除細動器のおかげで命が救われた方もおられると聞いておりますので、今年度秋田国体で多くの国民の皆様が当県にいらっしゃるということで当地域の自転車あるいはなぎなた等行われるわけですので、そのためにもあればそれにこしたことはないと考えております。

以上で、その他として説明させていただきましたが、市長から何かございますか。

市長

地域協議会から市長は提案を受けることが明示されております。こういう形で提案していただき大変すばらしいことだと思います。今週から来週にかけて各地域協議会を廻ります。地域枠予算については、かなりきっちり皆さん計画を組んでいただいておりますが、こうした提案事項が出てくるような気がします。そういう意味で先陣を切って大変ありがたいことだと思います。

AED自動体外式除細動器については、まだ大仙市全体としての検討が19年度の予算編成では入っておりません。地域協議会の皆さんの提案を受けて、どのような形にするか早速検討に入りたいと思います。

現在の状況ですけれども救急車11台ありますが、これにはプロ用の除細動器がまだ2台未配備となっております。何年か毎に救急車を更新しておりますので、まもなく更新時期にくる車が2台あるようでここにまだ積みきれないわけです。19年度又は20年度あたりで全部積みきれれると思います。合わせて簡易の除細動器の問題ですけれども、国体関係での対応はできております。国体局及び県とも相談しながら野球場、体育館などの施設に置いていても管理の問題がありますので、大きい大会があるときに一括管理して大会の期間、操作できる人と機械が行くというかたちで管理した方がいいだろうということで、国体の対応は出来ています。一般のところでは四ツ屋にあります株式会社オートエムワンの社長から大曲市に自動体外式除細動器2台が寄付されています。これは駅の情報センターに設置したのと消防本部で講習用に活用しております。郡内では14の病院・診療所それから一部ゴルフ場に置いてあるようです。この程度の置かれている状況のようです。

この前も学校の問題を提起されておりましたので、教育委員会とも話し合いをしてみました。教育委員会でも、まだ学校現場の方でどういう状況なのか、その辺をよく調べてみたいということでありました。そういう関係も含めて全体で調査してみたいと思っています。学校の関係は、学校と相談しながら、公民館などでは講習をしながら、いろいろやっていかなければならないと考えております。説明書だけではなかなか活用できないようですので、導入のための講習会をどのように行うかも含めて検討させていただきたいと思っておりますし、この問題に

については、地域枠予算というよりは全体の課題として、今日は持ち帰らせていただきます。

会 長

どうもありがとうございました。委員の皆さんから何かありませんか。

進藤（豊）委員

昨年9月に国体関連の講習会があり、そのときは一般の方々が心臓震盪での操作等を行うことは余りないだろうと考えてましたが、1月22日でしたかテレビ特番の中で小中高校生の心臓震盪という病気の病死扱いの結果であったのが事故として捉えられるようになったということです。資料を取り寄せてみましたら、至って健全な子どもが心臓震盪で亡くなるということなので、スポーツで子どもたちと係わる指導者にとってはAEDを是非身近に置いてもらいたいと思っています。このことは大仙市のスポーツ少年団の本部でも取り上げまして我々も取り組まなければならないと申し合わせ、3月に広域消防の方を招いて講習会を行ったところです。これからはスポーツに携わっている指導者はAEDの講習を受けて操作ができるように養成していきたいと思っております。

会 長

ほかにございますか。  
ないようですので、その他の1番を終わります。

熊谷副会長

前回の協議会のときに読み聞かせボランティアの方たちが地域枠から助成いただいたというご報告がありました。私も去年子ども見守り隊にいただいて報告と感謝を述べさせていただきました。助成をいただいてありがとうございました。

ただ、お金を貰うまで大変時間がかかり、見るに見かねてライオンズクラブが買ってくれたという経緯がありますけれど、如何せん、ずうずうしい言い方をさせていただくと決まったことが叶えてもらうまで時間がかかるものだなあというのが本音です。AEDについても早めに検討して欲しいと思います。

今年はいいただいたお金でどうにか間に合ったのですが、この先私たちも会員を増やしていくと当然一人ずつにお金がかかっていくことになります。その都度、また何かのときにはお願いしたいと思いますので、よろしく願います。

会 長

最近、子どもを見守るステッカーを付けた車を多く見かけるようになり、これも我々の意見が行政に反映された結果なのかなあと感じております。

他に何かありませんか。

池田委員

これは地域協議会と全然関係ないことかもしれませんが、折角市長さんがおいでになっておりますので、少しだけお話しさせていただきます。

先日、困りごと相談を受けました。この方は高齢者の夫婦ですが、お爺さんが心臓が悪くなって、お婆さんが救急車に電話したということです。そして、救急車が来たわけですが、その家が道路から入り込んでおまして、チョットした距離ですが、救急車がたどり着くの難儀したということです。後の話で、もう少し遅れていたら死んでしまうところだったと云われたそうです。その方の命が助かったということで、こういうことがあればいいなと相談にこられたわけです。高齢者世帯のところの除排雪とか市では心配りをされているとのことですが、その家は道路がちょっと狭いそうで、しかも道路の両側の圃場整備がすでに出来ています。圃場整備前であれば道路の拡張はできると思いましたが、整備後でございましたので、これはお願いしても出来ることではないなと疑問に思いました。現場を考えてみますと、片っ方に用水があり道路側の方には排水路があって、これが今あまり使われていないということでしたので、そこを埋めるとか、蓋をするとかすると、道路が拡張できて緊急自動車などが通れるようになるのではないかと感じました。支所の担当にはその旨お話をしておりますけれども、なにしろ市では財政的には難しい状態でございますので、ただ、そういう緊急を要して困っている方のために、どうか予算を優先的に回して実施してほしいなと思います。

会 長

市長、お願いします。

市 長

最初に、防犯パトロールの件ありがとうございました。19年度から各校大まかな計画を立ててもらっておりますので、事業をスタートするときには、すぐお金がでるような形になると思います。防犯パトロールについては、JA、管工事組合、技能組合など各事業所の様々な皆さんと協定を結んで、シールのデザインなども統一して取り組んでもらっております。

また、防災についても、防災の倉庫だけでは対応できないので、在庫ストックされているお店などと協定を結んだり、広い駐車場がある事業所には避難場所として提供してもらえよう協定を結んで、協力体制の拡大を意識的に行っております。

交通対策については、19年度からチームを組みまして高齢者の交通手段の確保を県と一緒に検討するモデルに指定されていますので、交通弱者のためのカバーをどうしたらとれるのか本格的に今年1年かけて計画をスタートさせたいと思っています。

もう一つが町内や地域の狭隘な道路の問題です。特に、仙北地域の道路事情については、議会でも指摘していただいております。一般的な道路予算は統括的に管理されておりますが、この仙北地域については、特別なかたちで対応しなければならないだろうと、特別枠を設けて、いま池田さんが云われた箇所などに対応したいと考えています。本格的な道路工事というのはなかなか難しいので地権者の協力を得ながら小規模な改良をすることによって緊急自動車を通れるようにしたいということで予算化しています。特別枠事業として位置づけています。このことについて、説明してください。

支所長

このことにつきましては、18年度も6カ所ほどやっていただきまして、19年度は500万円ほどの予算を見込んでいただいております。その中で、場所によりますが12カ所はできるのではないかと考えております。これは緊急性のある場所から選びだして進めていきたいと考えています。いま池田さんがおっしゃられた箇所については担当の建設課長から説明させていただきます。

建設課長

池田さんのいう箇所は、中学校の通りの県道沿いから離れた場所だと聞いております。圍場整備が終わった場所ということで確認しており工法を聞きますと可能なように思いますし、様々工夫をしながら進めて行きたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

会 長

ありがとうございました。よろしくをお願いします。  
他にございますか。小林委員。

小林委員

蒸し返すようで済みませんが、先ほど19年度予算が大体決まったというお話でしたが、ある方が云うのには、仙北にある小中学校にエアコンみたいな設備を備えるような話を聞いたと云うことです。エアコンはなくても命に別状はないと思いますし、であればこの前から進藤委員が提案しております除細動器を設置するよう予算を回してもらえないかということでした。私も先ほどのお話を聞いていて、たとえば救急車の全部に除細動器が積まれているもだと思ってました。また、病院にも設置してあるということですが、その数の少なさにショックを受けました。

会 長

ただいま小林委員から学校に冷房の設備を付ける情報がありまして、その予算があつたら除細動器を用意してくださいという意見のようです。

市 長

いろいろなお考えはあると思います。除細動器については、はっき

りした問題提起で、私としては初めてです。国体の関連で様々な対応をしようということで除細動器の寄付もあったわけですが、我々の方でも状況を掴みきれなかったということだと思います。今回問題提起を受けましたので、これはこれで技術的にきっちり対応しなければならぬのだろうという認識で帰らせていただきたいと思います。

これと小中学校の冷房とは区別願いたいと思います。全部の教室に付けるとういのではなくて保健室とかパソコン室とかにはエアコンがなければならぬという時代的な背景があり、これは計画的に小中・幼稚園、保育園も含めて必要な場所には付けることで19年度はやらせていただきたいと思います。

除細動器の問題については、全体で検討してご報告いたしたいと思います。

進藤（豊）委員

隣の横手市では各小中学校に備えておりまして、今年度は各施設に備えるようです。秋田県でも関心が高くなってきているようですので大仙市でも遅きに失しないようにしていただければ、我々も安心して市民の皆さんにご報告できると思いますので、よろしくお願いします。

会 長

はい、ありがとうございました。

他に何かございますか。

それでは、これで第7回仙北地域協議会を閉じたいと思います。

どうも、ありがとうございました。

この会議録の記載が真正であることを保証するためここに署名する。

仙北地域協議会署名委員

-----

仙北地域協議会署名委員

-----